

2013 年度大学院キャリアパス形成支援のためのアンケート調査について(分析報告)

本学大学院生のキャリアパス形成支援にかかる施策検討のため、2013 年 8 月～9 月に実施した全大学院生向けアンケート調査に関し、以下のとおり、その分析結果を報告します。分析結果については、今後における大学院キャリアパス支援制度構築のための基礎データとして活用していくものとします。

〈アンケート実施状況〉

(1) 実施期間

2013 年 8 月 21 日～10 月 20 日

(2) 対象者

本学に在籍する全大学院生

1. アンケート回収状況

(1) 全体回答件数 169 名

図表 1

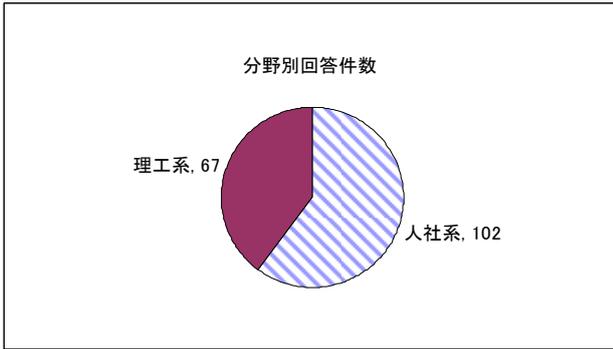
	前期・修士	後期	一貫制	専門職	総計	在学生数	回答率	昨年度回答率
法学研究科	4	1	—	—	5	64	7.8%	14.8%
経済学研究科	13	1	—	—	14	98	14.2%	14.7%
経営学研究科	3	1	—	—	4	74	5.4%	15.3%
社会学研究科	2	6	—	—	8	97	8.2%	11.1%
国際関係研究科	7	2	—	—	9	115	7.8%	16.3%
政策科学研究科	2	2	—	—	4	69	5.7%	21.7%
公務研究科	3	—	—	—	3	76	3.9%	19.0%
文学研究科	11	6	—	—	17	190	8.9%	11.8%
理工学研究科	25	10	—	—	35	829	4.2%	9.3%
情報理工学研究科	11	2	—	—	13	318	4.1%	7.4%
生命科学研究科	15	4	—	—	19	214	8.9%	8.9%
スポーツ健康科学研究科	4	3	—	—	7	55	12.7%	23.6%
応用人間科学研究科	4	—	—	—	4	79	5.1%	13.3%
言語教育情報研究科	6	—	—	—	6	94	6.4%	11.8%
先端総合学術研究科	—	—	7	—	7	148	4.7%	11.6%
テクノロジー・マネジメント研究科	6	1	—	—	7	121	5.8%	14.6%
法務研究科	—	—	—	1	1	184	0.5%	3.2%
経営管理研究科	—	—	—	3	3	73	4.1%	15.3%
映像研究科	3	—	—	—	3	13	23%	15.4%
総計	119	39	7	4	169	2911	5.8%	11.5%

※留学生の回答者は 27 名(理工 6 名、国際 6 名、言語教育情報 4 名、文 2 名、政策 2 名、経営 2、MOT2 名、情報理工 1 名、経済 1 名、経営管理 1 名)

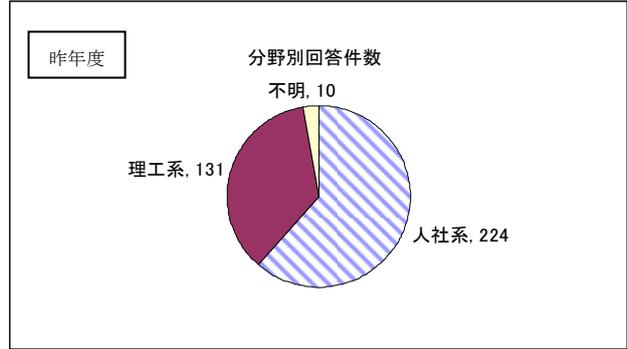
(2) 分野別・課程別回答件数

①分野別

図表 2

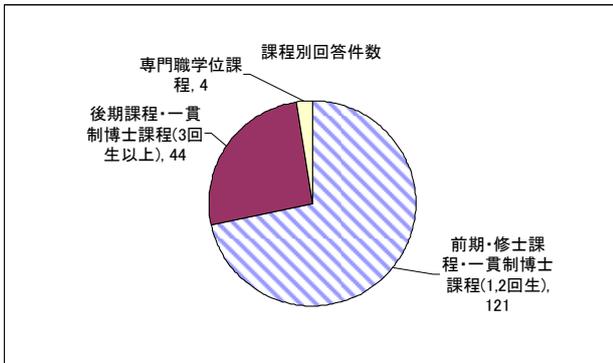


図表 3

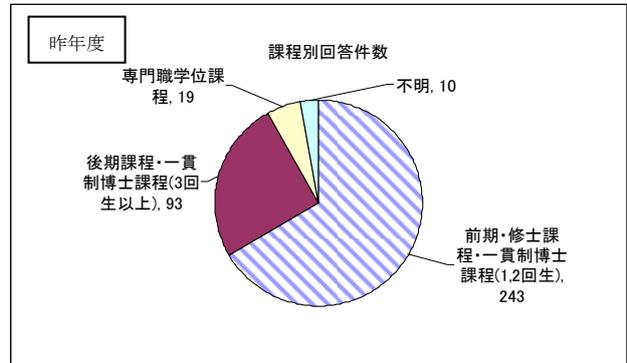


②課程別

図表 4



図表 5



【講評】

・分野別では昨年度同様、人社系の回答者が多く、課程別でも昨年度同様、前期課程の回答件数が多い。

2. 分析結果

※アンケート結果の表の見方

【課程】

先端総合学術研究科の1～2回生は博士課程前期課程、3回生以上は博士課程後期課程に分類。
法務研究科と経営管理研究科は専門職課程に分類。

【分野】

理工系は情報理工学、生命、理工で構成され、それ以外の研究科は人社系に含める。

(1) 研究活動に対するモチベーションと研究業績

1) 研究活動に対するモチベーション

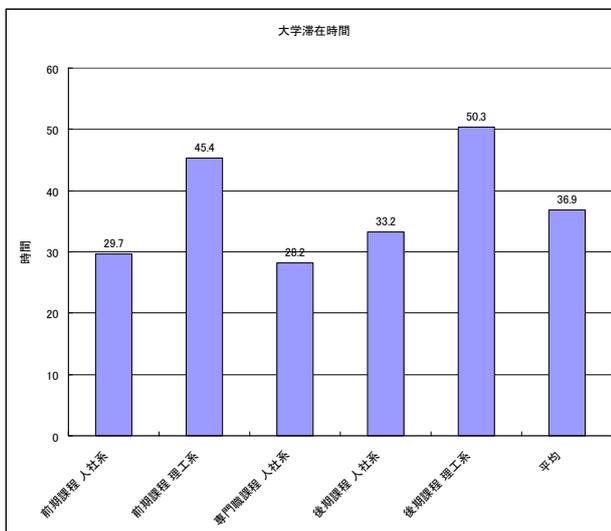
①大学滞在時間・研究室利用時間・研究学習時間・書籍・論文

図表 1

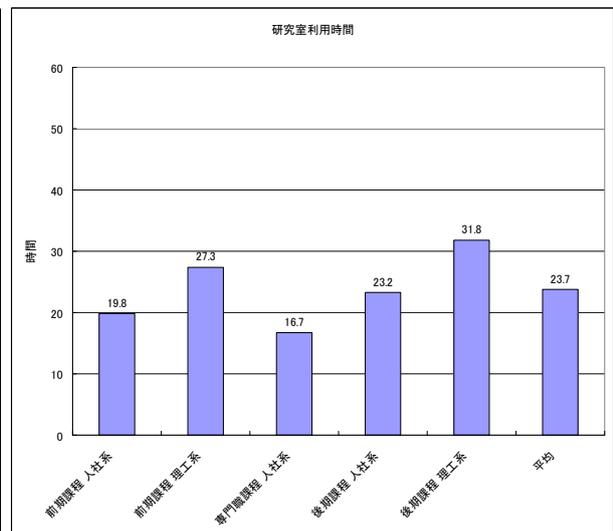
1-1.	1週間のうち講義、研究のために大学に滞在しているおおよその時間を教えてください。() 時間				
1-2.	1週間のうち共同研究室又は研究科自習室を利用するおおよその時間を教えてください。() 時間				
1-3.	1週間のうち研究・学習に費やすおおよその時間を教えてください。() 時間				
1-4.	1週間に読む書籍のおおよその数を教えてください。() 冊				
1-5.	1週間に読む論文のおおよその数を教えてください。() 編				
回答平均値	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5
平均	36.9 時間	23.7 時間	40.7 時間	2.3 冊	4.1 編
(詳細) 課程・分野別					
前期課程 人社系	29.7	19.8	33.7	2.7	4.1
前期課程 理工系	45.4	27.3	43.9	1.4	2.2
専門職 人社系	28.2	16.7	40.7	2.2	4.0
後期課程 人社系	33.2	23.2	50.1	3.3	6.5
後期課程 理工系	50.3	31.8	45.2	1.3	6.1
前期課程	36.3	23.0	38.0	2.2	3.3
後期課程	39.4	26.4	48.3	2.6	6.4
専門職	28.2	16.7	40.7	2.2	4.0
人社系	30.6	20.6	38.5	2.9	4.7
理工系	46.6	28.4	44.2	1.4	3.2

【大学滞在時間(1-1)、研究室利用時間(1-2)、研究・学習時間(1-3)】

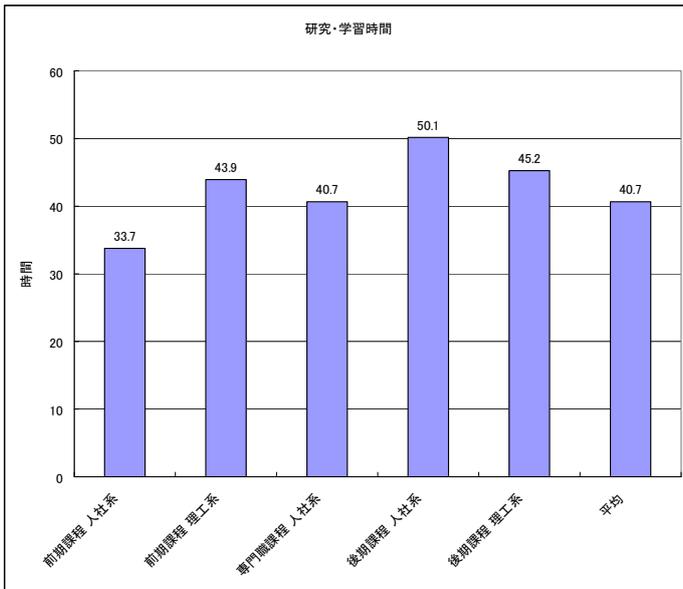
図表 2



図表 3



図表 4

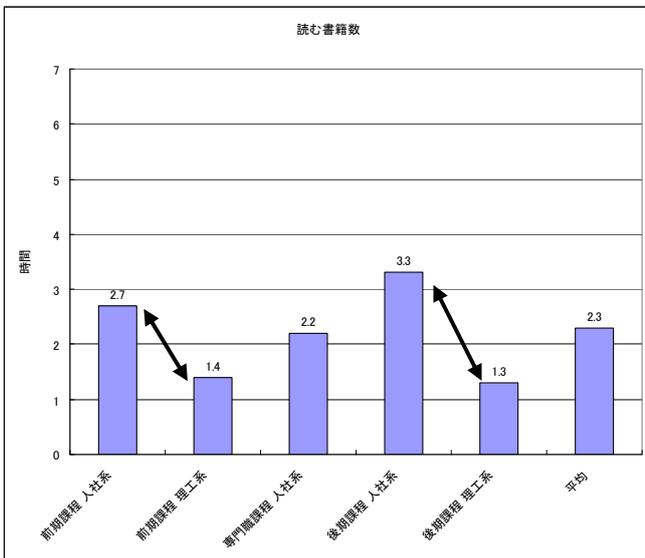


【講評】

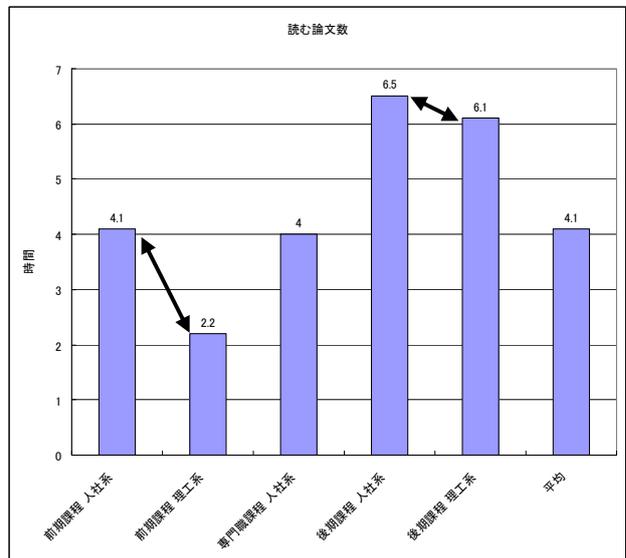
- ・ 「大学滞在時間」「研究室利用時間」について、課程問わず人社系より理工系、分野問わず前期課程より後期課程の時間数が多い。
- ・ 「研究・学習時間」について、前期課程においては人社系より理工系の時間数が多いが、後期課程においては理工系より人社系の時間数が多い。

【読む書籍数(1-4)、読む論文数(1-5)】

図表 5



図表 6



【講評】

- ・ 「書籍」の読書数について、課程問わず人社系が理工系より約 2 倍多い。
- ・ 「論文数」の読書数について、前期課程においては人社系が理工系より約 2 倍多い。後期課程の論文数については大きな差は見られない。

②研究会への参加と研究仲間

図表 7

1-6. 現在、定期的に開催される研究会や勉強会(公式または非公式問わず)に参加していますか。				
1-7. 研究活動をともに進めていく仲間(大学・機関問わず)はいますか。				
回答値	1-6		1-7	
	参加している	参加していない	仲間がいる	仲間がいない
計	94 人	75 人	116 人	53 人
割合	55.6%	44.4%	68.6%	31.3%
(詳細)課程・分野別				
前期課程 人社系	34 (48%)	36 (52%)	40 (57%)	30 (43%)
前期課程 理工系	25 (49%)	26 (51%)	44 (86%)	7 (14%)
専門職課程 人社系	2 (50%)	2 (50%)	2 (50%)	2 (50%)
後期課程 人社系	21 (75%)	7 (25%)	17 (60%)	11 (40%)
後期課程 理工系	12 (75%)	4 (25%)	13 (81%)	3 (19%)
前期課程	59 (48%)	62 (52%)	84 (69%)	37 (31%)
後期課程	33 (75%)	11 (25%)	30 (91%)	14 (9%)
専門職	2 (50%)	2 (50%)	2 (50%)	2 (50%)
人社系	57 (56%)	45 (44%)	59 (58%)	43 (42%)
理工系	37 (55%)	30 (45%)	57 (85%)	10 (15%)

【講評】

- ・「研究会・勉強会」について、前期課程では約 50%、後期課程では約 75%の大学院生が参加。
- ・「研究活動を共に進めていく仲間の存在」について、人社系では約 60%、理工系では約 80%の大学院生に研究活動を共に進めていく仲間がいる。

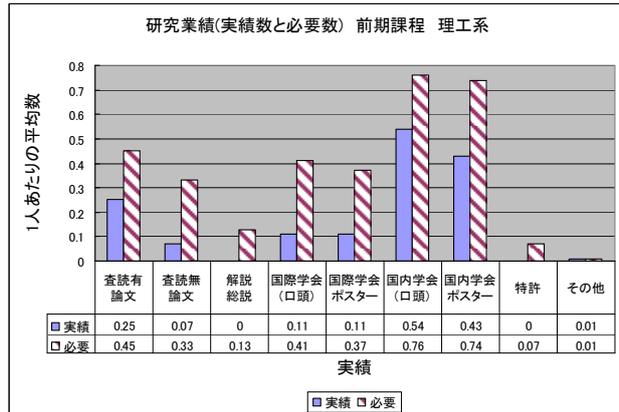
③研究業績必要数と実績数

- 1-8. 過去1年間にとのぐらゐの業績を出してきましたか(該当する項目がない場合は記入いただく必要はございません)。
 1-9. 1年間にとのぐらゐの業績を出す必要があると考えていますか(該当する項目がない場合は記入いただく必要はございません)。
- ①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読あり)
 - ②学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読なし)
 - ③学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
 - ④国際会議における発表(口頭発表)
 - ⑤国際会議における発表(ポスター発表)
 - ⑥国内学会・シンポジウム等における発表(口頭発表)
 - ⑦国内学会・シンポジウム等における発表(ポスター発表)
 - ⑧特許等
 - ⑨その他(受賞歴等)

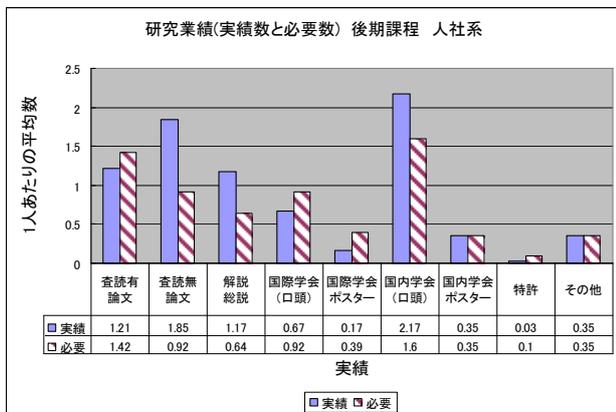
図表 8



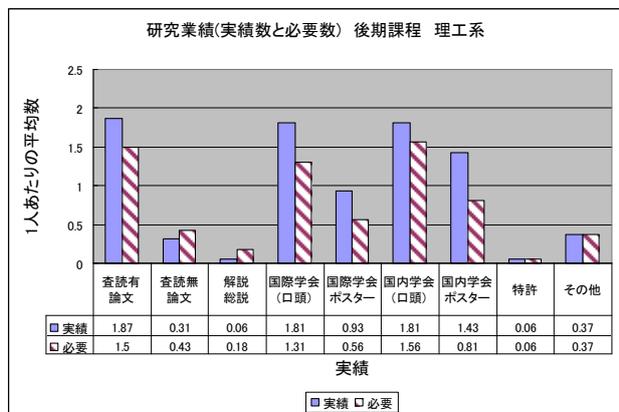
図表 9



図表 10



図表 11



【講評】

- 研究業績の必要数について、前期課程においては分野問わず必要数が「1」を下回る。
- 後期課程においては、人社系では「査読有論文」「国内学会(口頭)」が、理工系では「査読有論文」「国内学会(口頭)」の必要数が「1」を上回っており、在籍中に業績を上げる必要があると考えられている。
- 研究業績の実績数と必要数を比較すると、前期課程では実績数が必要数に到達していないが、後期課程では実績数が必要数を上回る。

2) 研究活動に対するモチベーションと研究業績数の関係性

「論文」「学会」などの各研究業績数を課程毎に3つのグループに分類。

※「前期-A」グループと「後期-A」グループは研究業績数が多い上位1割

(前期課程・専門職課程)

前期-A: 研究業績数 4 以上 (12 名)

前期-B: 研究業績数 1~3 (35 名)

前期-C: 研究業績数 0 (78 名)

(後期課程)

後期-A: 研究業績数 10 以上 (8 名)

後期-B: 研究業績数 2~9 以上 (26 名)

後期-C: 研究業績数 1 以下 (7 名)

(各グループの構成)

図表 12

研究業績数		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	18	計
前期/ 専門職 課程	前期-A					4	4	1	1		1						1	12
	前期-B		17	8	10													35
	前期-C	78																78
後期 課程	後期-A											1	2	3	1	1		8
	後期-B			6	4	2	4	5	2	2	1							26
	後期-C	2	5															7
計		80	22	14	14	6	8	6	3	2	2	1	2	3	1	1	1	166

① 各グループの研究活動に対するモチベーション

図表 13

研究業績	1-1 大学滞在時間 平均(時間)	1-2 研究室利用時間 平均(時間)	1-3 研究・学習時間 平均(時間)	1-4 書籍数 平均(冊)	1-5 論文数 平均(編)
前期-A	39.2	17.0	49.3	1.4	2.1
前期-B	43.0	29.0	42.2	1.9	3.5
前期-C	32.5	20.9	34.5	2.4	3.4
後期-A	53.5	36.6	64.8	1.8	3.3
後期-B	40.6	27.1	47.3	3.2	7.3
後期-C	24.5	16.0	36.2	1.8	4.4
平均	36.9	23.7	40.7	2.3	4.1

【講評】

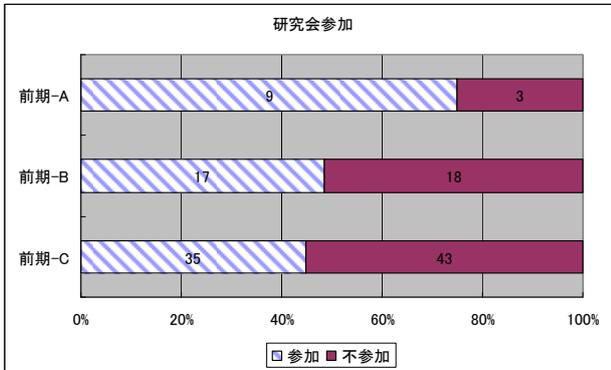
- 前期課程について、「研究・学習時間」においては、「前期-A」「前期-B」「前期-C」の順番で時間数が長い、「研究・学習時間」以外については傾向が見られない。
- 後期課程について、「大学滞在時間」「研究室利用時間」「研究・学習時間」においては、「後期-A」「後期-B」「後期-C」の順番で時間数が長い、「書籍」「論文」については傾向が見られない。

- ・ 「研究・学習時間」については課程問わず、研究業績数が多いグループの時間数が長く、研究業績数が少ないグループの時間数が短い。

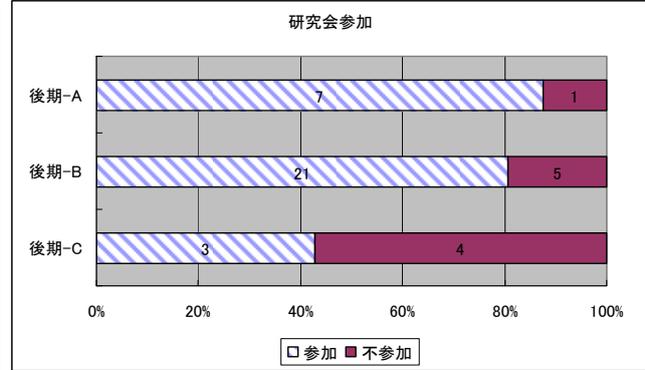
②研究活動に対するモチベーション毎の研究業績数

【1-6 研究会参加状況】

図表 14

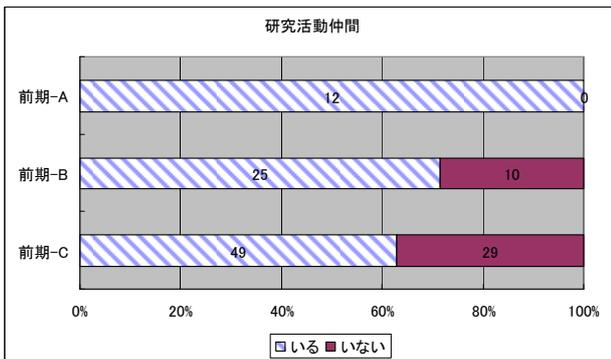


図表 15

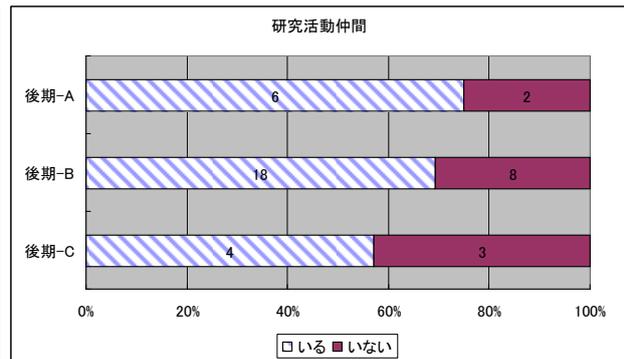


【1-7 研究活動仲間】

図表 16



図表 17



【講評】

- ・ 「研究会参加」「研究活動仲間」について、課程問わず研究業績数が多いグループほど研究会に参加しており、研究活動をとも進めていく仲間がいる。特に、「前期-A」の大学院生においては12名全員研究活動を共に進めていく仲間がいる。

＝研究活動に対するモチベーションと研究業績について＝

所属する研究科の課程、分野問わず、「研究活動時間」の時間数が長いほど、また、「研究会・勉強会」については参加している大学院生ほど研究業績数が多い結果となりました。本学大学院キャリアパス推進室では、大学院生が「研究会・勉強会」等の研究活動に積極的に参加できるような環境づくりの強化を図っていくと共に、「立命館大学大学院学生研究科活動支援制度」の活用を推奨していきます。

大学院キャリアパス推進室 HP 「立命館大学大学院学生研究科活動支援制度」

http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/doctor/article.html?id=5

(2) 経済状況と研究業績

1) 経済状況

①大学院生の収入状況

図表 18

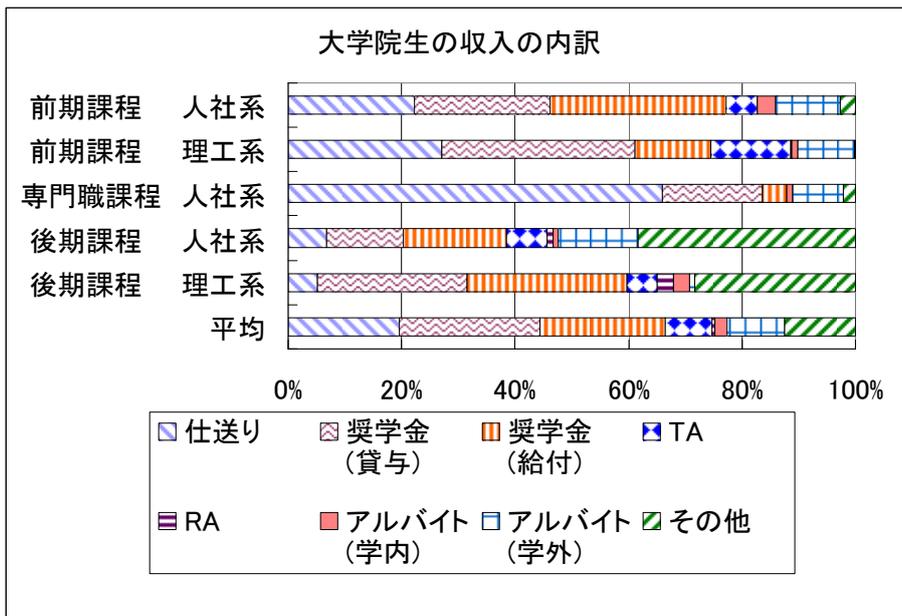
2-1. 1ヶ月のおよその平均収入とその構成について教えてください。

①総額②仕送り③奨学金（貸与）④奨学金（給付）⑤TAとしての給与⑥RAとしての給与⑦アルバイト（学内） Rainbow スタッフ・科研費アルバイト等⑧アルバイト（学外）⑨その他（給与等）

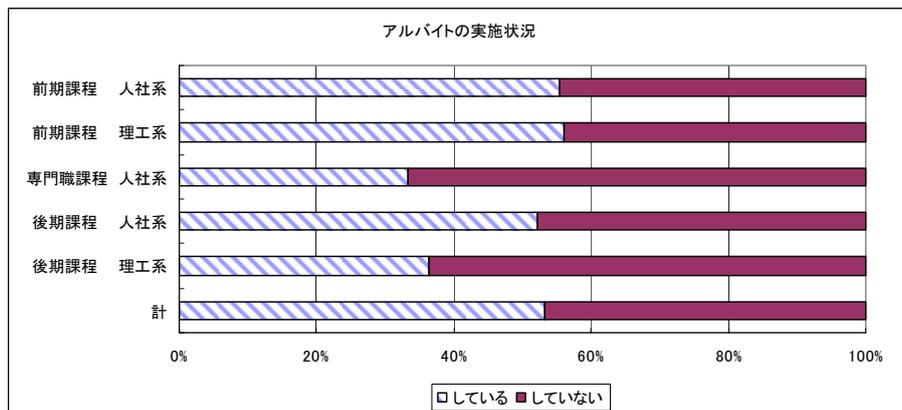
回答平均値 (1人あたりの平均値)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	総額	仕送り	奨学金 (貸与)	奨学金 (給付)	TA	RA	アルバイト (学内)	アルバイト (学外)	その他
	123,619円	24,157円	30,692円	27,328円	10,151円	734円	2,465円	12,630円	15,462円
(詳細)									
前期課程 人社系	110,943	24,804	26,429	34,408	6,125	0	3,527	12,688	2,964
前期課程 理工系	103,638	28,110	35,320	13,840	14,653	100	1,060	10,400	200
専門職課程 人社系	151,667	100,000	26,667	6,667	0	0	1,667	13,333	3,333
後期課程 人社系	161,417	10,870	22,000	29,261	11,478	1,739	1,609	22,504	61,957
後期課程 理工系	192,091	10,000	50,636	54,182	10,182	5,455	5,455	1,636	54,545

※社会人入試方式で入学した大学院生、国費留学生除く

図表 19



図表 20

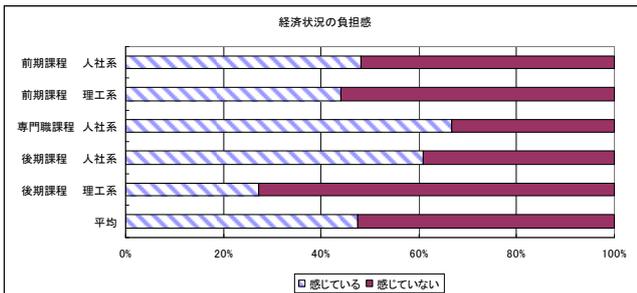


【講評】

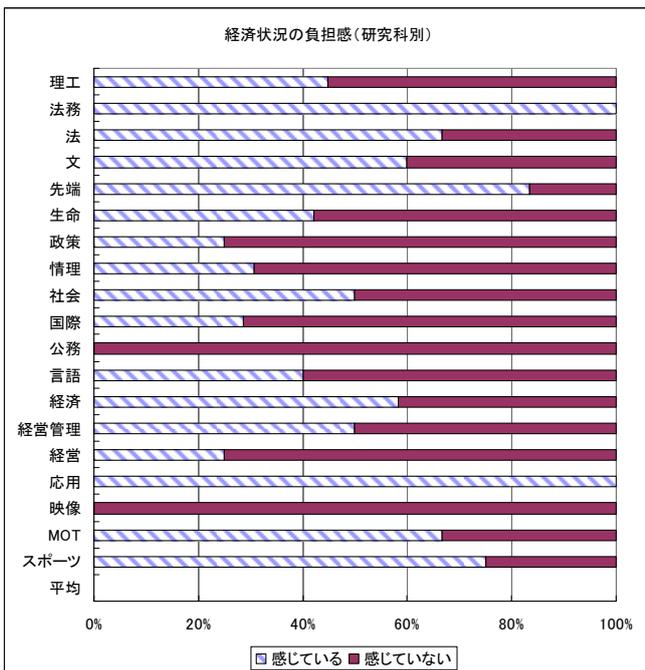
- ・ 大学院生の1ヶ月の平均収入は約12万円である。課程分野別で比較すると、後期課程理工系(約19万円)が一番多く、前期課程理工系(約10万円)が一番少なく、約2倍の差が見られる。
- ・ 大学院生の収入の内訳について、前期課程と後期課程理工系においては、収入の約50%が奨学金である。後期課程人社系においては奨学金による収入は30%程度である。また、専門職課程においては、収入の約66%が仕送りである。
- ・ アルバイトの実施状況について、約50%の大学院生がアルバイトをしている。課程分野による差は見られない。

②経済状況の負担感

図表 21



図表 22



【講評】

- ・ 約50%の大学院生が経済状況に負担を感じている。
- ・ 課程分野別で比較すると、専門職課程が負担に感じている割合が約66%と高く、博士課程理工系が約25%と低い。
- ・ 研究科別で比較すると、研究科毎にばらつきがあり、応用研(4人)は全員負担を感じているのに対して、公務(3人)と映像(3人)は全員負担を感じていない。
- ・ 経済的負担を感じる理由は「アルバイトをする時間・余裕がないこと」があげられる

(経済的負担を感じる理由)

図表 23

1. アルバイトをする時間・余裕がない	22人
2. 学費が高い	17人
3. 学会・研究会等に参加する余裕がない	6人
4. 収入が少ない	6人
5. 貸与型奨学金を返済できるかわからない	5人
6. 交通費にお金がかかる	3人

*その他、仕事がない、食費・医療費がかかる、など

③奨学金・助成制度の認知度(博士課程前期課程のみ)

(博士課程前期課程のみ)

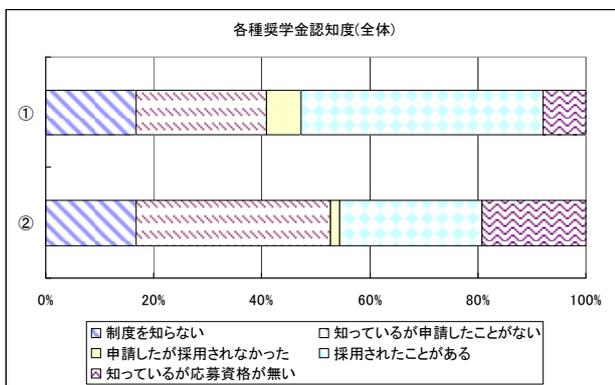
大学院生を対象とした奨学金制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

①立命館大学大学院進学奨励奨学金 ②立命館大学大学院育英奨学金

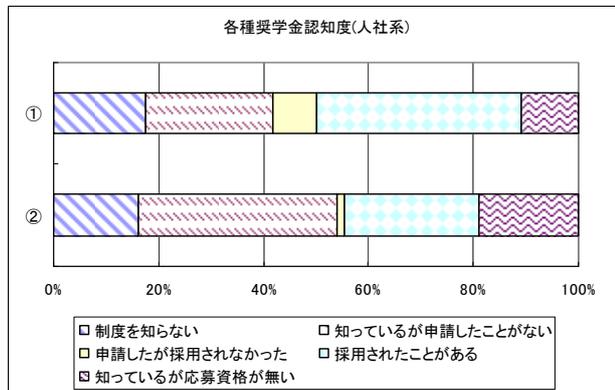
【凡例種別】 1:制度を知らない、2:知っているが申請したことがない、3:申請したが採用されなかった

4:採用されたことがある、5:知っているが応募資格が無い

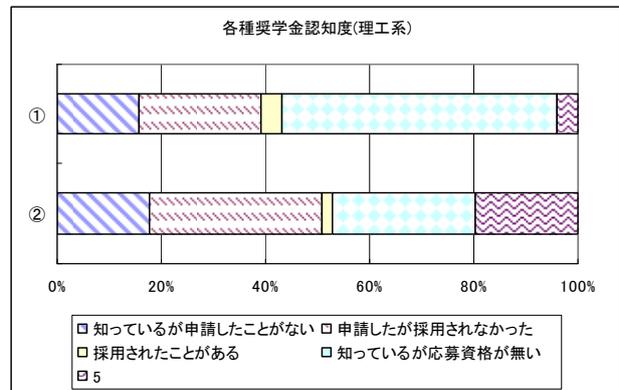
図表 24



図表 25



図表 26



【講評】

・奨学金の認知度は分野問わず約 80%である。

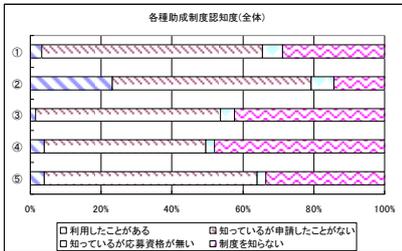
(博士課程前期課程のみ)

大学院生を対象とした助成制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

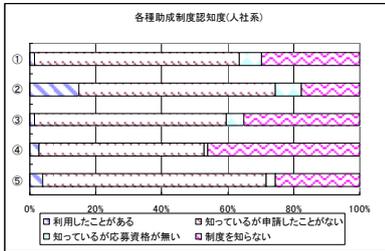
①「留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」②「国内学会参加補助制度」「国外学会発表補助制度」「国内学会発表補助制度」③「研究実践活動補助制度」④「研究会活動支援制度」⑤「ベーススキル向上のための支援制度」

【凡例種別】 1:利用したことがある 2:知っているが申請したことがない 3:知っているが応募資格が無い 4:制度を知らない

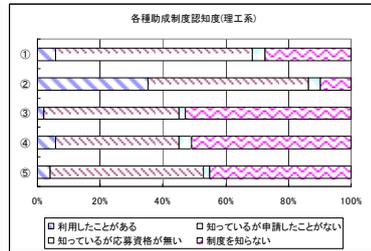
図表 27



図表 28

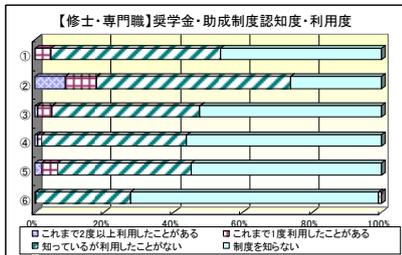


図表 29

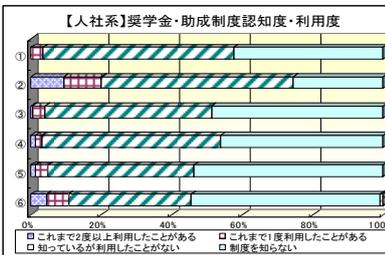


(昨年度)

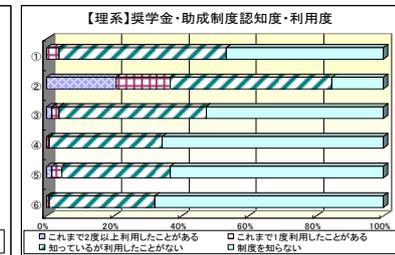
図表 30



図表 31



図表 32



【凡例種別】

1:これまで2度以上利用したことがある、2:これまで1度利用したことがある、3:知っているが利用したことがない、4:制度を知らない、—:回答なし
※①～⑤は図1～3と同じ。

※⑥【博士後期・一貫制のみ】海外における研究活動を行うための助成制度(国際的研究活動促進研究費)

【講評】

- ・全体として、「①協定留学奨学金」70%、「②学会発表補助」90%の認知度は高い。しかし、「③研究活動実践補助制度」「④研究活動支援制度」「⑤ベーススキル」の認知度は50～60%、理工系では50%である(図表1, 図表2, 図表3)。
- ・「②学会発表補助」は、理工系の利用が多いが、認知度においては分野間で差は見られなかった(図表2, 図表3)。
- ・昨年度と比較すると全体的に認知度は高くなっている。特に「②学会発表補助」は70%→90%、「③研究活動実践補助制度」「④研究活動支援制度」「⑤ベーススキル」の認知度も40%→60%と高くなっている(図表1, 図表4)。

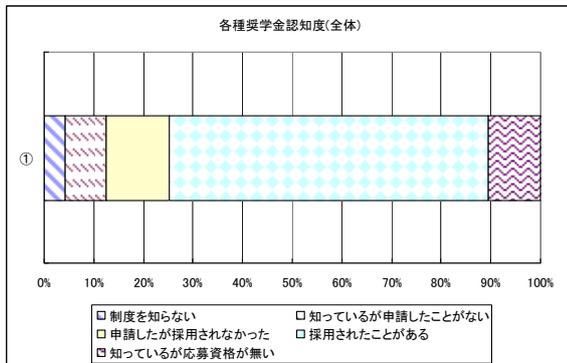
(博士課程後期課程のみ)

大学院生を対象とした奨学金制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

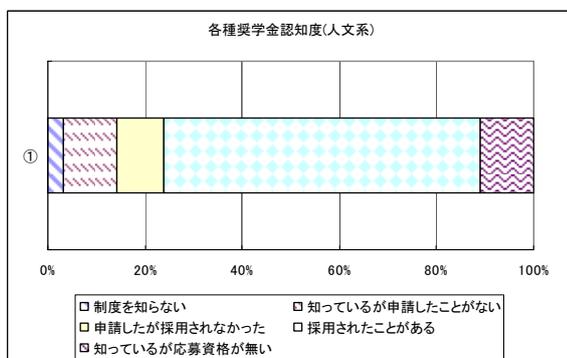
①立命館大学大学院博士課程後期課程研究奨励奨学金

【凡例種別】 1:制度を知らない、2:知っているが申請したことがない、3:申請したが採用されなかった
4:採用されたことがある、5:知っているが応募資格が無い

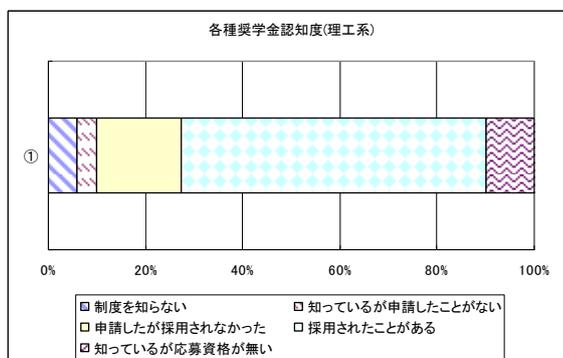
図表 33



図表 34



図表 35



【講評】

- 奨学金の認知度は96%であり、ほとんどの後期課程の大学院は本奨学金を知っている。また、「知っているが申請したことがない」大学院生が約10%も存在している。また、分野別の認知度に大きな差は見られない。

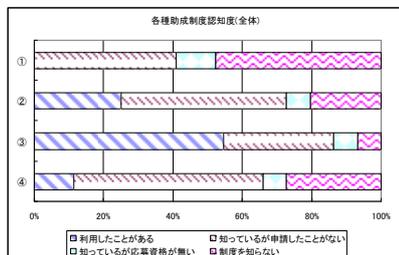
(博士課程後期課程のみ)

大学院生を対象とした助成制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

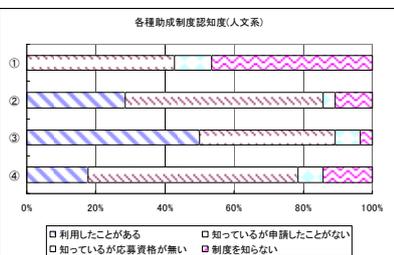
①「留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」 ②「国際的研究活動促進研究費制度」 ③「国外学会発表補助制度」
「国内学会発表補助制度」 ④「研究会活動支援制度」

【凡例種別】 1: 利用したことがある、2: 知っているが申請したことがない、3: 知っているが応募資格が無い
4: 制度を知らない

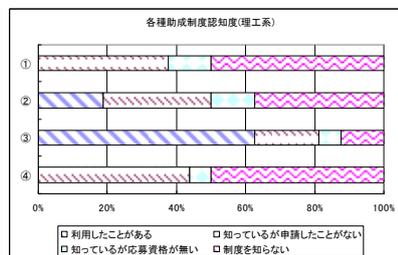
図表 36



図表 37

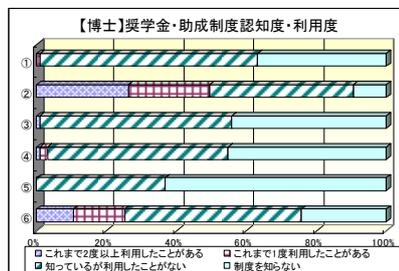


図表 38

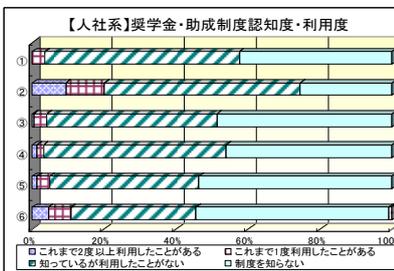


(昨年度)

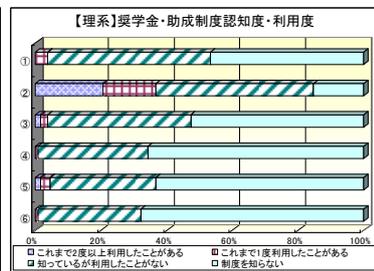
図表 39



図表 40



図表 41



【凡例種別】

1: これまで2度以上利用したことがある、2: これまで1度利用したことがある、3: 知っているが利用したことがない、4: 制度を知らない、—: 回答なし

※「①留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」「②学会発表補助制度」「④研究会活動支援制度」「⑥国際的研究活動促進研究費制度」

【講評】

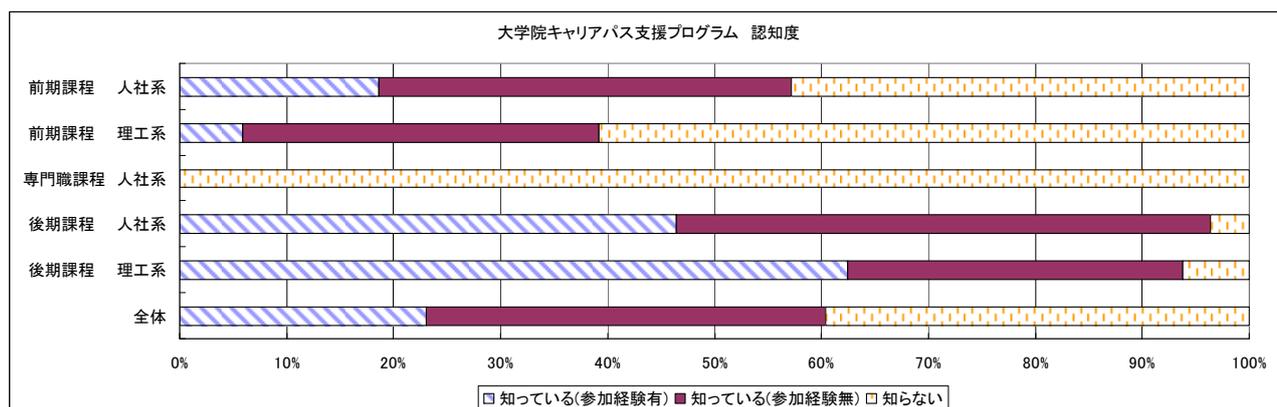
- ・全体として、「②国際的研究活動促進研究費制度」80%、「③学会発表補助」90%の認知度は高い。しかし、「留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」の認知度は50%程度と低い(図1)。
- ・分野間で比較すると、「②国際的研究活動促進研究費制度」と「④研究会活動支援制度」は理工系より人社系の認知度の方が高い(図表2, 図表3)。
- ・昨年度と比較すると、「①留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」60%→50%、「②国際的研究活動促進研究費制度」80%→75%、「③国外学会発表補助制度・国内学会発表補助制度」90%→95%、「④研究会活動支援制度」35%→70%である。「④研究会活動支援制度」の認知度が特に高くなった(図表1, 図表4)。

④大学院キャリアパス支援プログラムの認知度

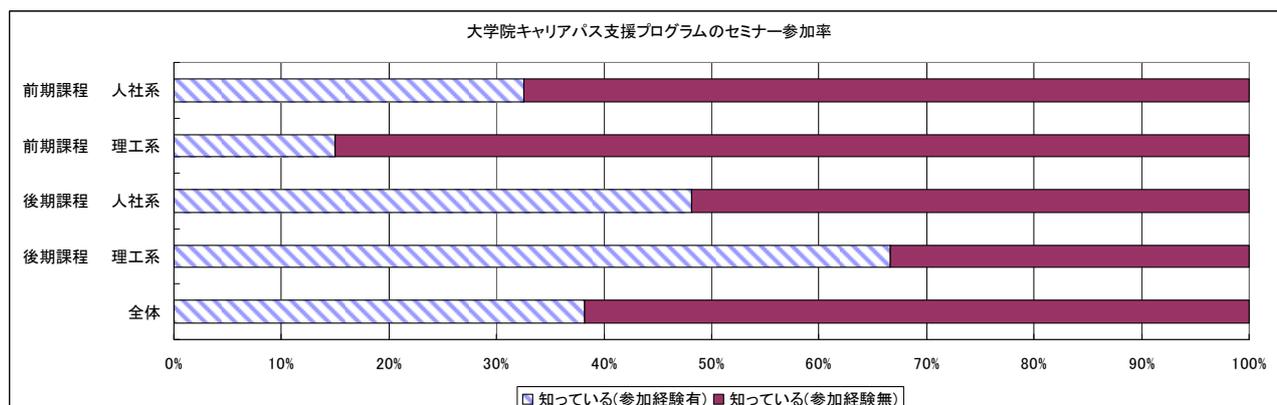
図表 42

回答	知っている		知らない
	参加したことがある	参加したことがない	
	23.0%	37.2%	39.8%
前期課程 人社系	18.5	38.5	42.8
前期課程 理工系	5.8	33.3	60.7
専門職 人社系	0	0	100
後期課程 人社系	46.4	50.0	3.57
後期課程 理工系	62.5	31.25	6.25
前期課程	13.2%	36.3%	50.5%
後期課程	52.2%	43.1%	4.7%
専門職	0%	0%	100%
人社系	25.4%	40.1%	34.5%
理工系	19.4%	32.8%	47.8%

図表 43



図表 44



【講評】

- ・大学院キャリアパス支援プログラムの認知度は、分野間では認知度の差は見られないが、課程間では大きな差が見られる(前期課程 50%、後期課程 96%)。
- ・大学院キャリアパス支援プログラムを知っている大学院生におけるセミナー等の参加状況は、分野間

で差は見られないが、課程間においては、前期課程学生の約 25%、後期課程の約 50%しか参加したことがない(図表 2)。

大学院キャリアパス支援プログラムのセミナーを知っているが参加したことがない理由
図表 45

1. 時間が合わない	21 人
2. 魅力あるセミナーがない	8 人
3. 必要性を感じない	5 人
4. 時間がない	5 人
5. 日本語ができない	3 人

*その他、住まいが遠い、申込が面倒、これから参加しようと思っている、など

2) 研究業績数との関係性

①収入と研究業績数

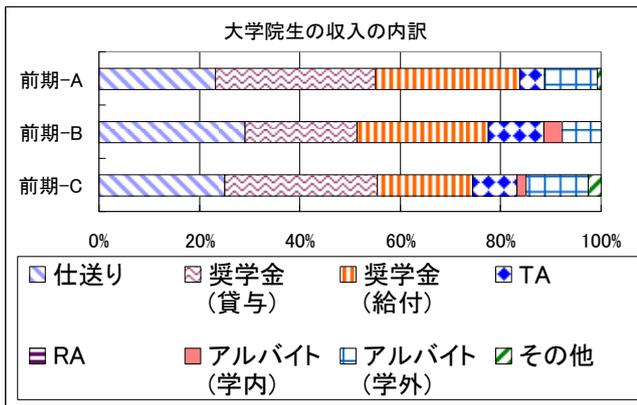
図表 46

グループ別 収入(円)	総額	仕送り	奨学 (貸与)	奨学 (給付)	T A	R A	アルバイト (学内)	アルバイト (学外)	その他 (給与等)
前期-A	114,875	26,667	36,500	33,125	5,667	0	0	12,083	833
前期-B	121,871	35,517	27,133	31,767	13,521	0	4,600	9,333	0
前期-C	101,751	25,507	30,855	19,229	8,985	75	1,754	12,619	2,627

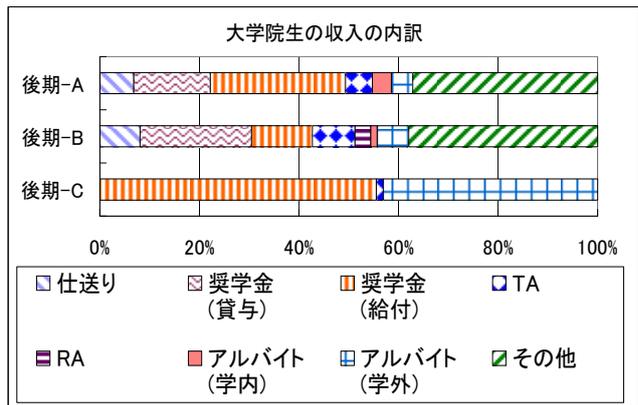
図表 47

グループ別 収入(円)	総額	仕送り	奨学 (貸与)	奨学 (給付)	T A	R A	アルバイト (学内)	アルバイト (学外)	その他 (給与等)
後期-A	230,857	15,714	35,429	62,857	12,571	0	8,571	10,000	85,714
後期-B	154,730	12,500	34,750	18,750	13,350	5,000	1,850	9,780	58,750
後期-C	157,000	0	0	87,250	2,250	0	0	67,500	0

図表 48



図表 49



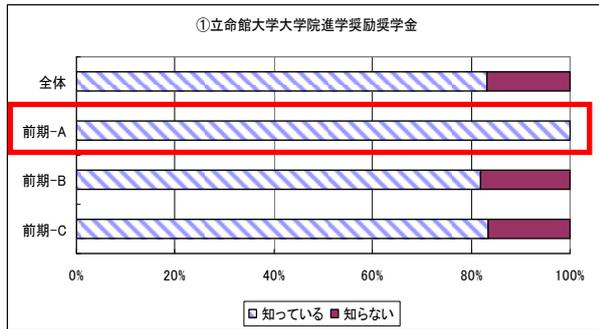
【講評】

- ・ 前期課程について、研究業績数のグループ間による収入額の差は見られない。また、大学院生の収入の内訳による差も見られない。
- ・ 後期課程について、研究業績数のグループ間で比較すると「後期-A」の収入が一番高い(約 23 万円)。「後期-B」「後期-C」による差は見られない(約 15 万円)。
- ・ 「後期-C」は学外アルバイトによる収入が約 40%であり、「後期-A」「後期-B」と比較すると非常に高い。

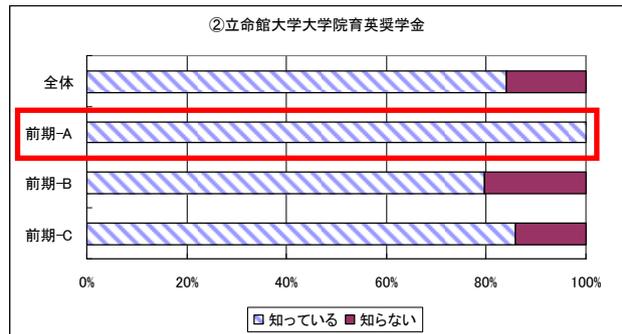
②奨学金・助成制度の認知度と研究業績数

(前期課程)

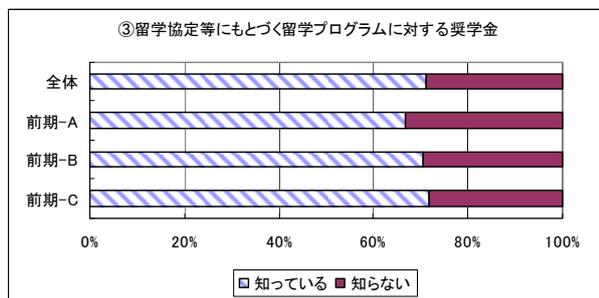
図表 50



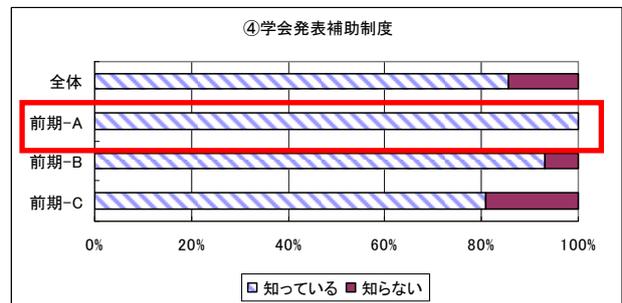
図表 51



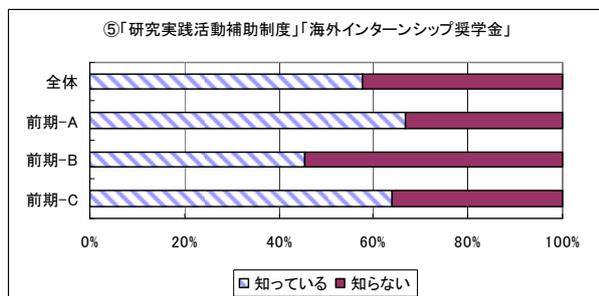
図表 52



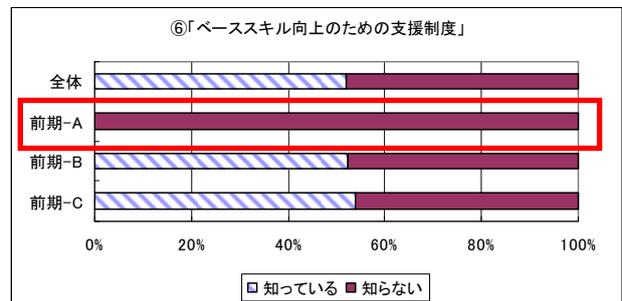
図表 53



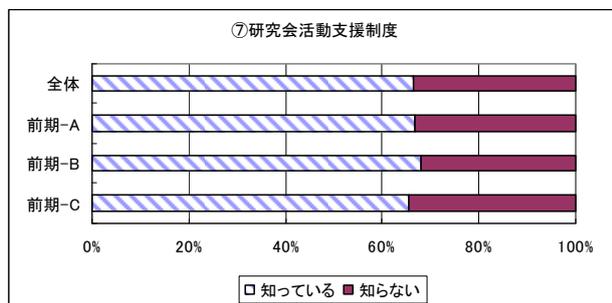
図表 54



図表 55



図表 56

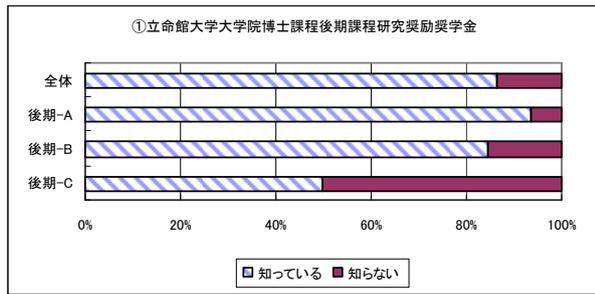


【講評】

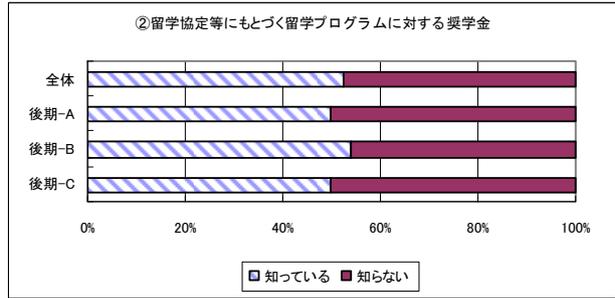
- ・①～⑦の奨学金・助成制度におけるグループ毎の認知度は、「前期-A」については「①立命館大学大学院進学奨励奨学金」「②立命館大学大学院育英奨学金」「④学会参加補助制度」は100%であったが、それ以外の助成制度について差は見られない。「⑥ベーススキル向上のための支援制度」については0%であった。
- ・「前期-C」の認知度は平均並であり、他のグループと大きな差は見られない。

(後期課程)

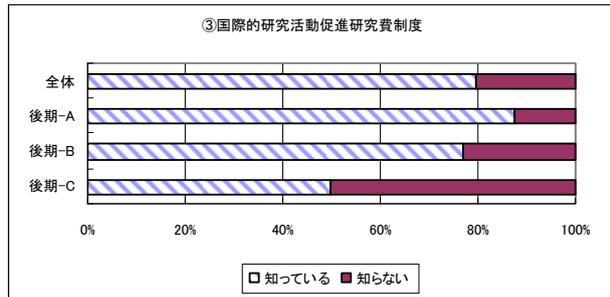
図表 57



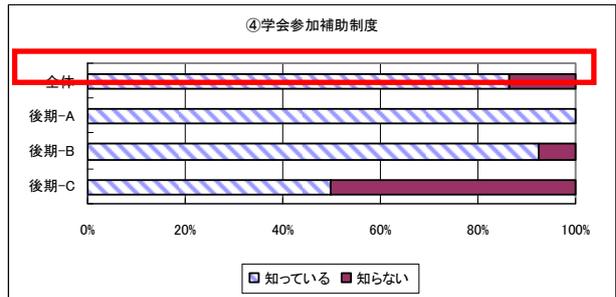
図表 58



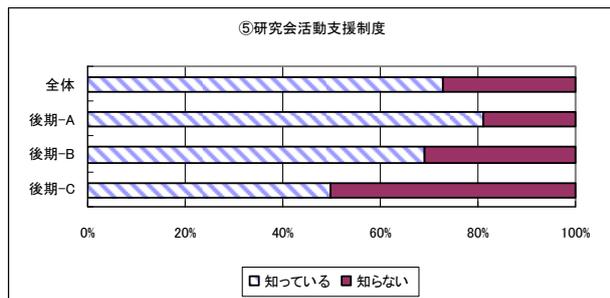
図表 59



図表 60



図表 61

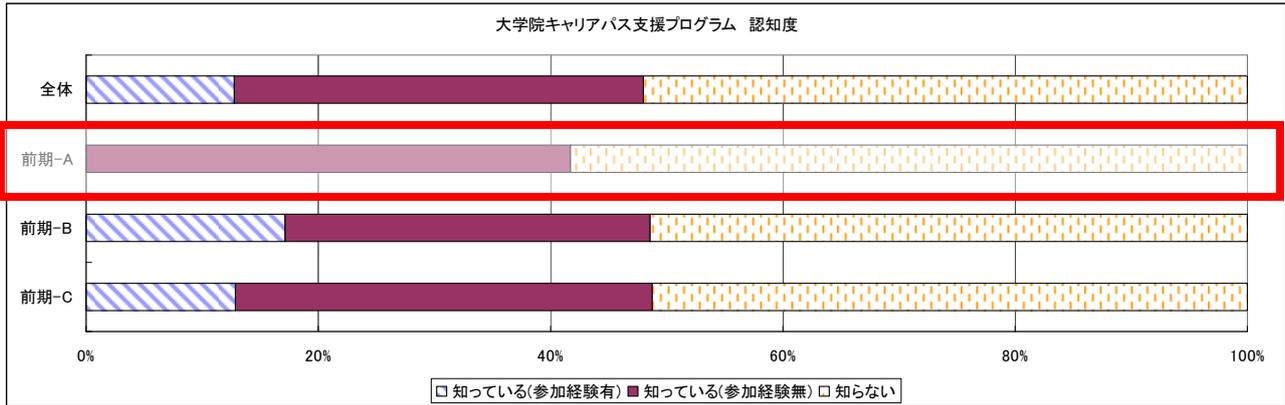


【講評】

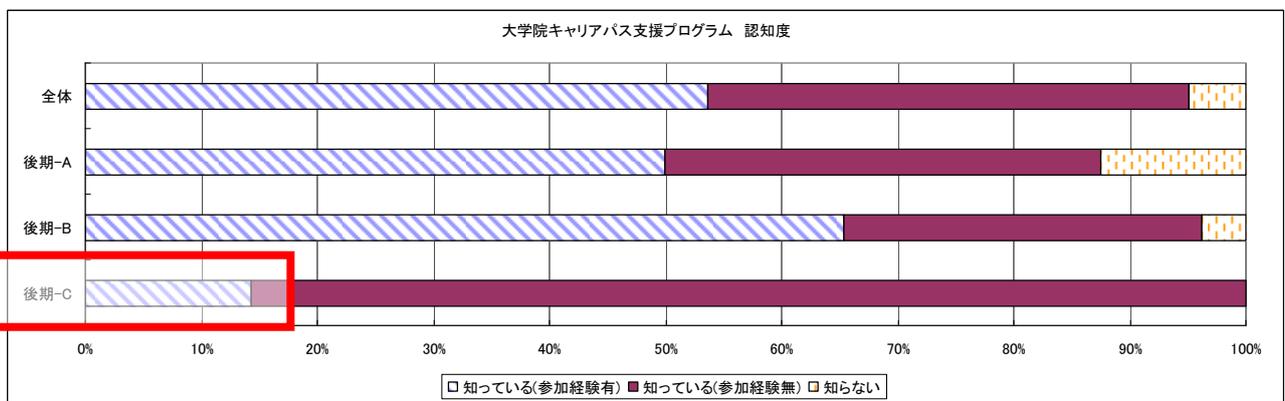
- ①～⑤の奨学金・助成制度におけるグループ毎の認知度は、「後期-A」については「④学会参加補助制度」は100%であった。「②留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金」以外は全て「後期-A」、「後期-B」、「後期-C」の順番で認知度が高くなっている。

③大学院キャリアパス支援プログラムの認知度と研究業績

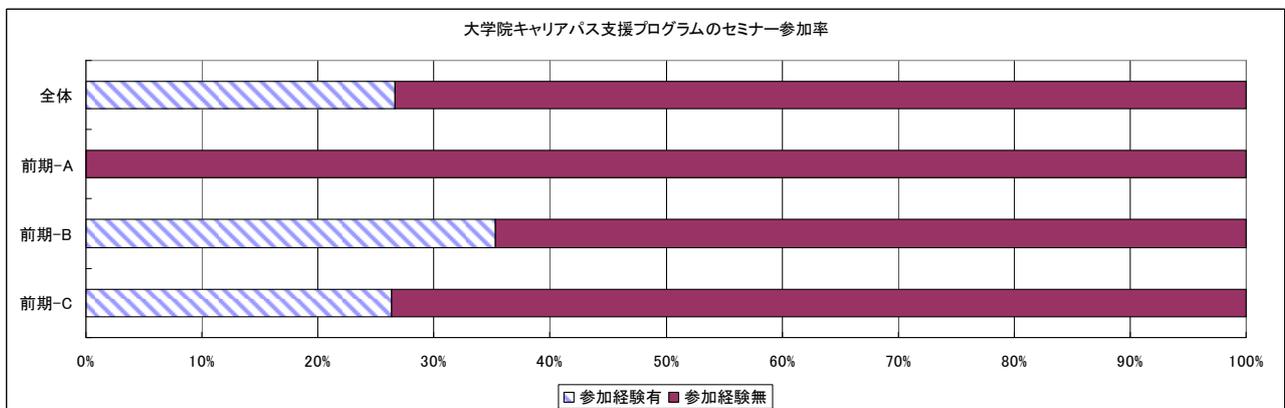
図表 62



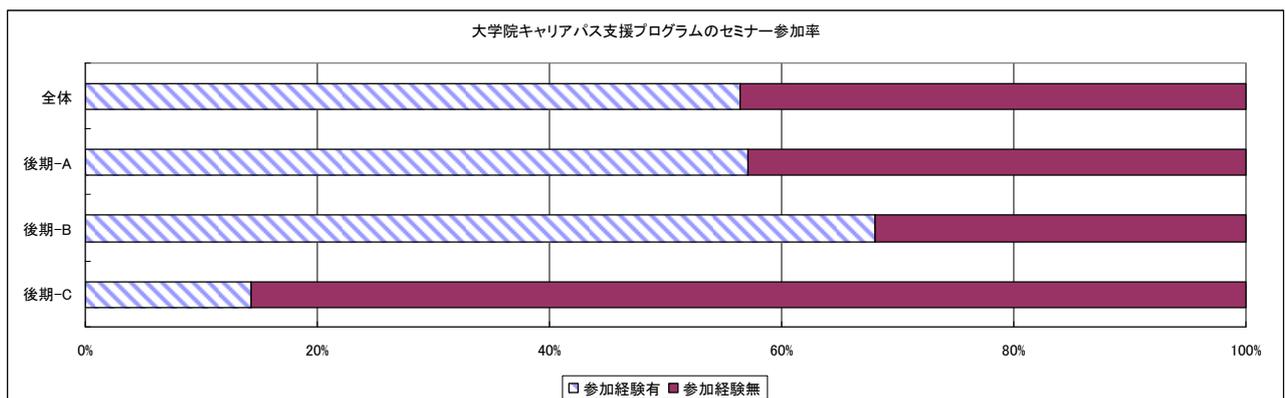
図表 63



図表 64



図表 65



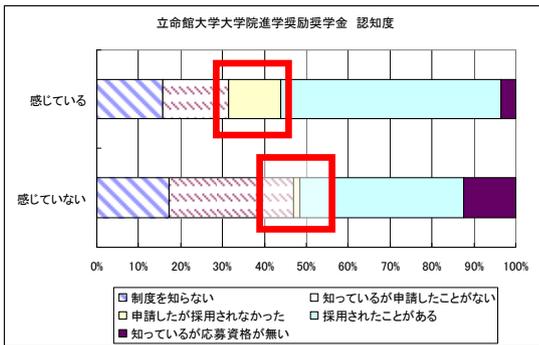
【講評】

- ・ 大学院キャリアパス支援プログラムの認知度について、課程問わずグループ毎の差は見られない。
- ・ 大学院キャリアパス支援プログラムのセミナー参加率について、「前期-A」は12名全員参加したことがない。「前期-B」と「前期-C」による差は見られない。後期課程では「後期-A」「後期-B」の差は見られないが、「後期-C」の参加率は15%と低い。

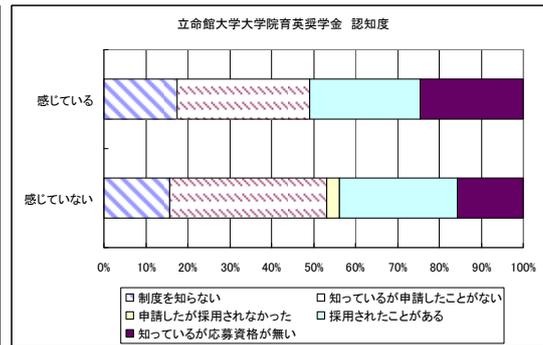
④経済状況負担感と奨学金の認知度

経済状況に負担を感じている大学院生と感じていない大学院生の奨学金の認知度について
(前期課程)

図表 66

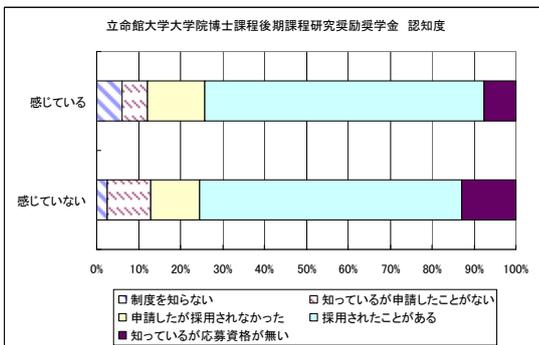


図表 67



(後期課程)

図表 68



【講評】

- ・ 全体として、経済状況に負担を感じている大学院生と感じていない大学院生において、奨学金の認知度の差は見られない。
- ・ 前期課程「立命館大学進学奨励奨学金」において、「申請したが採用されなかった」大学院生の比率は、負担を感じている大学院生(10%)と負担を感じていない大学院生(2%)に差が見られる。

＝経済状況と研究業績について＝

大学院生の1ヶ月の収入と研究業績数の関係について、前期課程においては研究業績数による収入の差は見られませんでした。また、後期課程においては研究業績数が多いグループの収入が一番多い結果となり、相関関係が見られました。また、研究業績数が少ないグループにおいては学外アルバイトによる収入が約40%と高く、学外アルバイトに時間が割かれていることが分かりました。大学院キャリアパス推進室では大学院生に対する奨学金制度の広報強化を図っていきます。

大学院キャリアパス支援制度の認知度について、前期課程においては認知度が約 50%であるのに対して、後期課程では約 95%でした。後期課程においては非常に高い認知度でしたが、大学院キャリアパス支援プログラムのセミナー参加率については理工系においては約 65%、人社系においては 50%弱であり、「知っているが参加したことがない」大学院生が多く、今後はこのような大学院生に参加してもらえるよう、開催時期と開催方法の検討を行っていきます。

大学院キャリアパス推進室 HP「立命館大学大学院 奨学金・研究助成制度」

http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/

大学院キャリアパス推進室 HP「大学院キャリアパス支援プログラム」

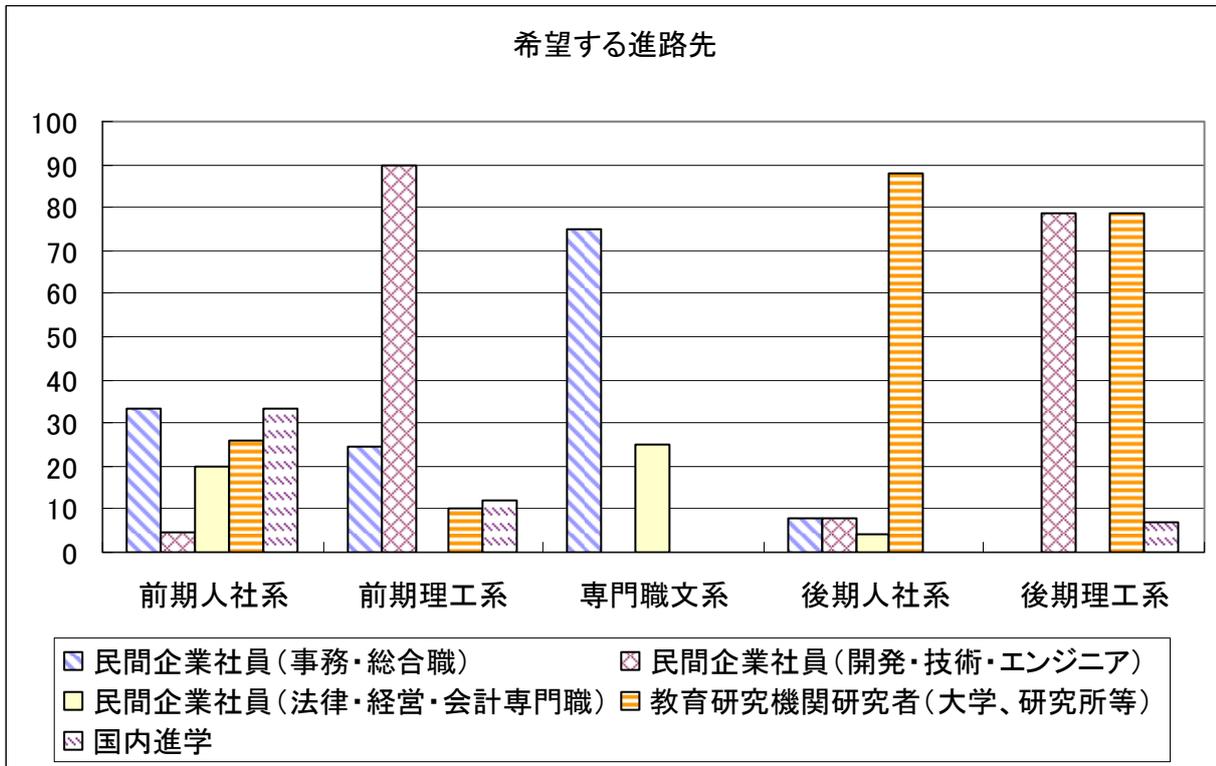
http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/program/

(3) キャリアと研究業績

1) キャリア

① 希望進路先

図表 1

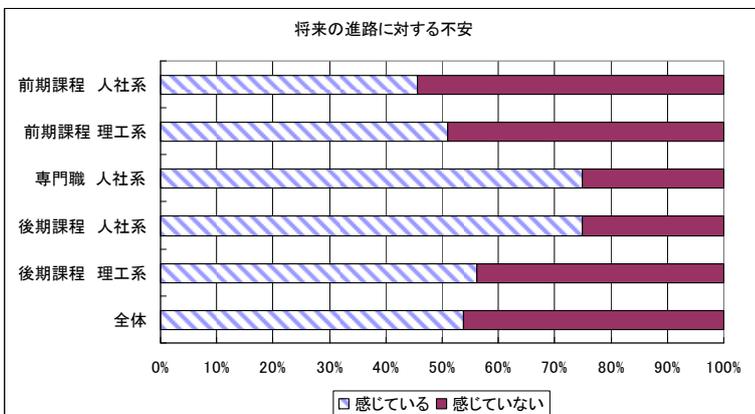


【講評】

- 希望進路先について、前期課程理工系では約 90%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」、後期課程人社系では約 90%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望している。
- 後期課程理工系では約 80%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」と「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望している。

② 将来の進路に対する不安

図表 2



【将来の進路に対する不安理由】

図表 3

1. 就職活動がうまくいかかわからない	23 人
2. アカデミックな職に就くのが困難	14 人
3. 日本語があまりできない	5 人
4. 自身の能力が不足していると思う	3 人
5. 経済状況が悪い	3 人
6. 年齢	3 人

*その他、奨学金の返済、仕事と家庭の両立、わからない、など

【講評】

- ・ 将来の進路に対する不安について、前期課程よりも後期課程の方が不安に思っている比率が高い。特に、後期課程人社系は約 75%が不安に思っている。

③大学院で修得する能力

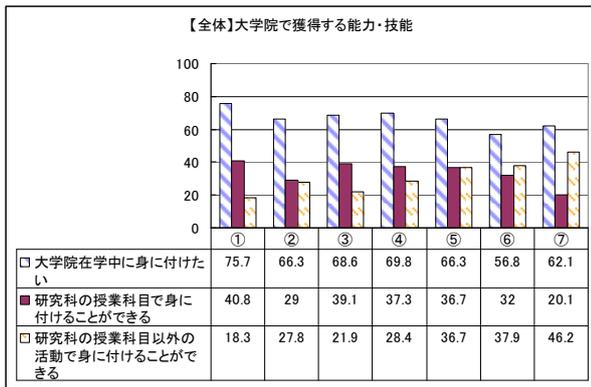
大学院にて獲得する能力・技能種別

- ①リサーチ・スキルとテクニック（問題認識、批判的思考・分析、理論的考察、研究方法の理解・応用等の能力）
- ②研究環境への理解（研究者業界、研究規範、研究資金活用、研究成果発表方法等の理解）
- ③研究マネジメント力・情報収集力（研究の計画と実践、情報の収集・管理・活用の技能）
- ④研究への意欲・独創性・客観性（学習意欲、知識欲、思考の柔軟性、自己研鑽、創造性等）
- ⑤表現力・論述力・コミュニケーション力（目的に応じた文章化、建設的弁護、意見の発信等の能力）
- ⑥ネットワーク構築力とチームワーク力（他者傾聴、意見発信、協力的ネットワーク構築等）
- ⑦キャリア・マネジメント力（自身の能力理解、進路開発に向けた行動、就職活動での効果的発信等の能力）

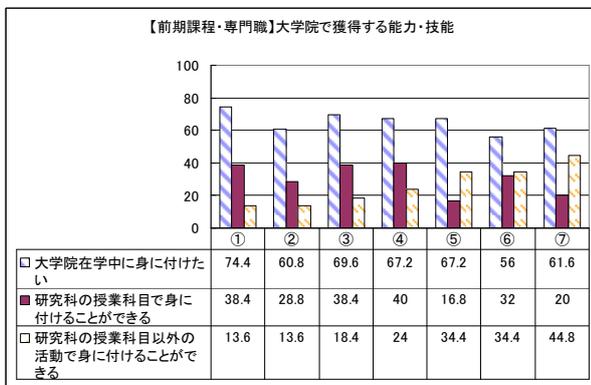
【凡例種別】

- 1. 大学院在学中に身に付けた
- 2. 研究科の授業科目で身に付けることができる
- 3. 研究科の授業科目以外の活動で身に付けることができる

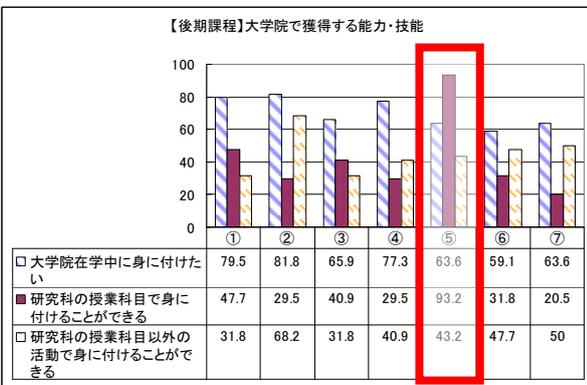
図表 4



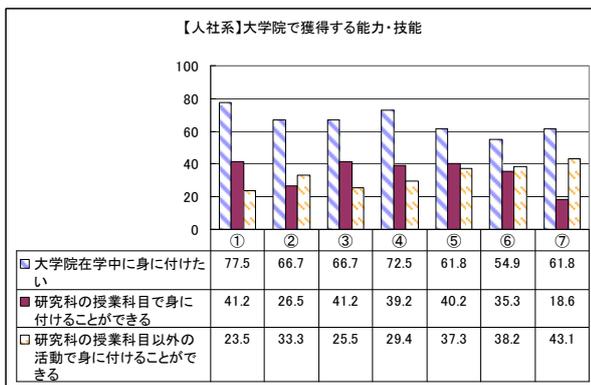
図表 5



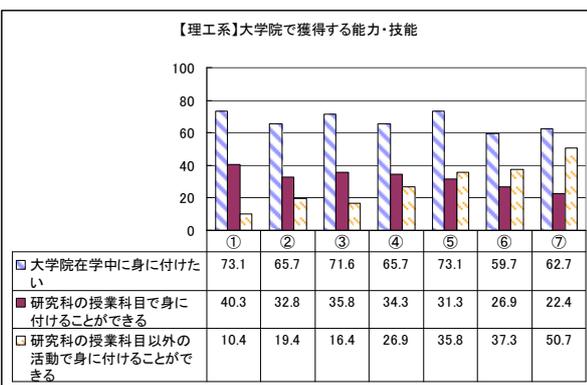
図表 6



図表 7



図表 8

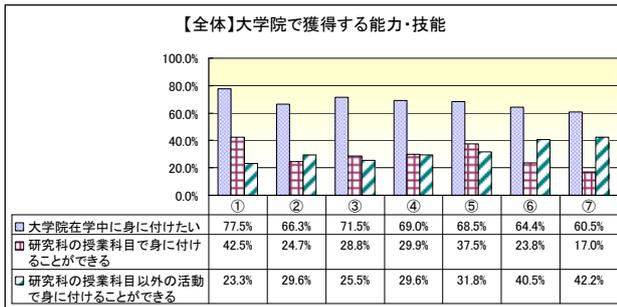


【講評】

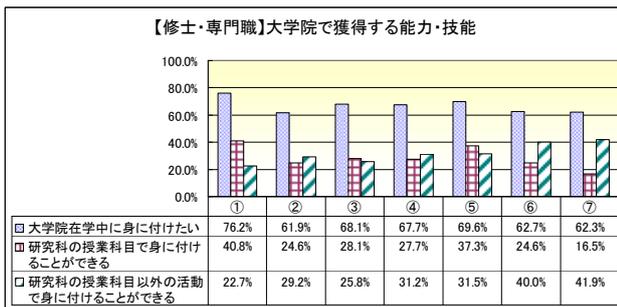
- ・ 全体として、大学院在学中に身に付けたい能力としては「リサーチ・スキルとテクニック」が一番高い(図表 1)。
- ・ また、「研究環境への理解」、「研究マネジメント力」、「研究への意欲」については研究科授業科目で身に付けることができる(できた)と考えられているが、「キャリア・マネジメント力」については、主に「研究科授業科目以外の活動」において身につく(ついた)と考えられている(図表 1)。
- ・ 後期課程については、「研究科授業科目」によって、表現力・論述力・コミュニケーション力が身につく(93.2%)と考えられている(図表 3)。

(昨年度)

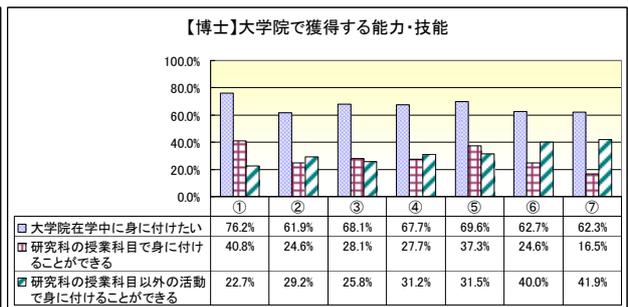
図表 9



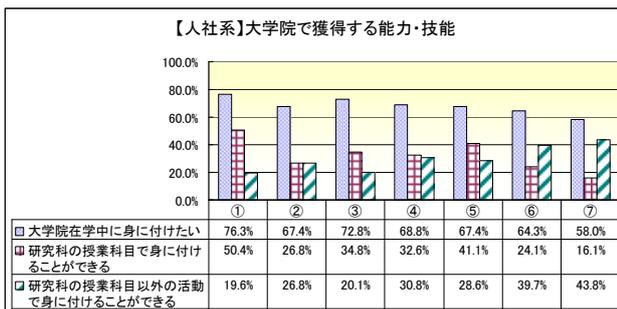
図表 10



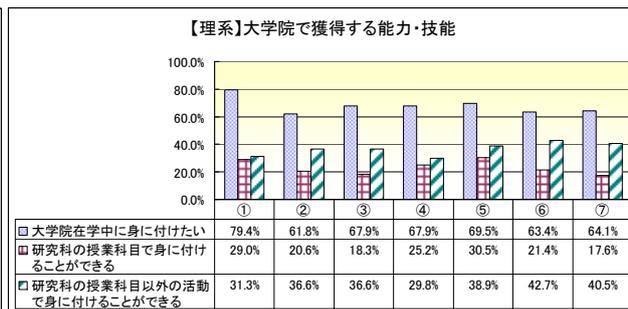
図表 11



図表 12



図表 13



【講評】

- ・ 昨年度と比較すると、全体としての傾向は変わらず、昨年度も大学院在学中に身に付けたい能力としては「リサーチ・スキルとテクニック」が一番高く、「キャリア・マネジメント力」については、主に「研究科授業科目以外の活動」において身につく(ついた)と考えられている(図表 6)。

(参考)身に付けたいが大学院では機会がない能力

図表 14

1. ネットワーク構築力・キャリアマネジメント力	5人
2. コミュニケーションスキル	4人
3. 外国語	3人

*その他、他研究分野、社会人マナーなど

＝キャリアについて＝

希望進路先については、前期課程理工系では約90%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」、後期課程人社系では約90%が「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望しているという結果でした。後期課程理工系では約80%が「民間企業(開発・技術・エンジニア)」と「教育研究機関研究者(大学、研究所等)」の進路を希望しており、現時点では進む進路を決め切れていない状況が伺えます。大学院在学中に身に付けたい能力としては昨年度同様「リサーチスキルとテクニク」が一番高く、問題認識、批判的思考、分析、理論的考察、研究方法の理解等の能力向上が研究活動には必要であると考えられています。正課と課外の両方を通じて向上することが重要であるため、大学院キャリアパス支援制度と正課との連携プログラムである「Graduate+Rプログラム」を2014年度より実施します。

大学院キャリアパス推進室 HP「Graduate+Rプログラム」

http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/stepup/graduate_r_program.html/

以上